

コースコード：DO-DSOF

税込価格：198,000円 (税抜価格：180,000円)

日数：2日間

前提条件

参加者は、一般的なDevOpsの定義と原則に関する基本的な知識と理解を持っている必要があります。

受講対象者

DevSecOps Foundationコースの対象者は、以下のようなプロフェッショナルです。

DevSecOpsの戦略や自動化に関わる方、興味のある方
継続的デリバリーのツールチェーン・アーキテクチャに関わる人
コンプライアンスチーム
ビジネスマネージャー
デリバリースタッフ
DevOpsエンジニア
ITマネージャー
ITセキュリティの専門家、実務家、マネージャー
メンテナンス・サポートスタッフ
マネージド・サービス・プロバイダ
プロジェクト&プロダクトマネージャー
品質保証チーム
リリースマネージャー
スクラムマスター
サイト・リライアビリティ・エンジニア
ソフトウェア・エンジニア
テスター

コース概要

企業がコードをこれまで以上に速く、頻繁にデプロイするようになると、新たな脆弱性の発生も加速します。より少ないリソースでより多くのことを」と上司が言うとき、DevOpsのプラクティスは、ビジネスとセキュリティの価値を不可欠な戦略的要素として追加します。開発、セキュリティ、運用をビジネスのスピードに合わせて提供することは、現代の企業にとって不可欠な要素となるはずですが。

このコースでは、DevSecOpsがどのようにビジネス価値を提供するか、ビジネスチャンスを拡大するか、企業価値を向上させるかなどをテーマにしています。教えられるDevSecOpsの中核となる原則は、組織の変革をサポートし、生産性を高め、リスクを減らし、リソースの使用を最適化します。

このコースでは、DevOpsのセキュリティプラクティスが他のアプローチとどのように異なるかを説明し、組織に変更を適用するために必要な教育を提供します。受講者は、DevSecOpsの目的、利点、コンセプト、語彙、アプリケーションを学びます。最も重要なことは、DevSecOpsの役割がDevOpsの文化や組織にどのように適合するかを学ぶことです。コースの終わりには、参加者は、セキュリティとコンプライアンスの価値をサービスとして消費可能にするための「コードとしてのセキュリティ」を理解します。

本コースでは、開発者やオペレータからビジネスCレベルまで、セキュリティプログラムを統合するための手順を学びます。このコースでは、すべての関係者がそれぞれの役割を担い、組織や顧客を守るための主要な手段として、専門家がどのようにこれらのツールを使用できるかを、複数のケーススタディ、ビデオプレゼンテーション、ディスカッションオプション、演習教材を用いて、学習効果を最大限に高めています。このような現実的なシナリオは、参加者がホームオフィスに戻ってから活用できる具体的な収穫をもたらします。

このコースは、学習者がDevSecOps Foundation試験に合格することを目的としています。学習者は、自分の都合に合わせて受験できるWebベースの試験のパウチャーを受け取ることができます。

目的

学習目標には、以下のような実践的な理解が含まれています。

DevSecOpsの目的、利点、コンセプト、および語彙
DevOpsのセキュリティ対策は他のセキュリティアプローチとどう違うのか
ビジネスに直結したセキュリティ戦略とベスト・プラクティス
データおよびセキュリティ・サイエンスの理解と応用
企業のステークホルダーをDevSecOpsの実践に組み込む
開発チーム、セキュリティチーム、運用チーム間のコミュニケーションの強化
DevSecOpsの役割とDevOpsの文化や組織との相性

アウトライン

DevSecOpsの成果の実現

DevOpsの起源

DevSecOpsの進化

CALMS

3つの方法

サイバー脅威の定義

サイバー・スレット・ランドスケープとは？

脅威とは？

何から守るのか？

何を守るのか、そしてその理由は？

どうやってセキュリティに相談すればいいの？

レスポンスなDevSecOpsモデルの構築

デモンストレーションモデル

技術的、ビジネス的、人間的な成果

何を測定しているのか？

ゲーティングとスレッシュホールド

DevSecOpsのステークホルダーの統合



DevSecOpsの心構え

DevSecOpsのステークホルダー

誰にとって何が問題なのか？

DevSecOpsモデルへの参加

DevSecOpsのベスト・プラクティスの確立

スタート・オブ・ザ・イヤー

人、プロセス、技術とガバナンスの統合

DevSecOpsの運用モデル

コミュニケーションの方法と境界線

成果にこだわる

始めるためのベストプラクティス

3つの方法

ターゲットとなる国を特定する

バリューチェーンを中心とした考え方

DevOps パイプラインと継続的なコンプライアンス

DevOps パイプラインの目標

継続的なコンプライアンスが重要な理由

アーキタイプとリファレンス・アーキテクチャー

DevOps パイプライン構築の調整

DevSecOpsツールの分類、種類、例

アウトカムを使った学習

セキュリティトレーニングのオプション

ポリシーとしてのトレーニング

体験型学習



クロススキリング

DevSecOpsの集合的な知識体系

DevSecOps Foundation認定試験への準備